



## 十勝のごちそう — 小町Berry誕生秘話 —

十勝のごちそうではチーズ製造・6次産業に情熱を傾ける酪農研会員取材していきます



### File.04 山下 展子さん(南部十勝地方連 大樹単研)

#### 「あの時の辛かった思いが今の自分を強くさせた」

「最初はこの町が好きになれなかった。でも、その気持ちが自分を強くさせ楽しく生きる原動力になっていった」と大樹町の山下展子さんはそう語る。山下さんは町内の農業生産者3人で立ち上げたブランド「小町Berry」の代表を務める。小町Berryはチーズケーキやクッキー、いもだんごを製造し大樹道の駅限定で

品を販売している2012年に設立した女性グループ。「当時は携帯普及しておらず、農家の嫁になってから仕事・子育てが忙しくクラス会にも参加出来なかった。強い喪失感に苛まれた。」と昔を振り返る。育児と休みの無い酪農の仕事は想像以上にハード。みんな日々が続く中、子育てが一段落。旦那の後押しもあり仲間と掛け合い大樹町にしかない特産品を作ろうと奮闘。「今まで自分の中に押し込めてきた全ての思いを形にしたい」という一心で小町Berryを立ち上げた。



### 大樹Sweet Cottageを多くの人に食べて欲しい

みんな苦労の末に誕生したのが小町Berryの代表商品である大樹Sweet Cottageだ。町内の生乳を存に使用した乳製品から作った逸品だ。このチーズケーキで町おこしを目指したが、今振り返るとそれは同時に自分おこしにも繋がったと振り返る。「今では大樹町が好きです。今は毎日幸せな日々ですよ」と笑顔で語る。※商品は大樹道の駅限定で数に限りがありますので予めご了承下さい。

## 大樹工場通信

雪印メグミルク大樹工場は当社の主力製品である雪印北海道100さるチーズやカマンベールチーズ、フレッシュチーズなど多種多様な品を製造しています。現在大樹工場では一般見学を受け付けており多くのお客様にご来場頂いています。



家族みんなで大樹工場に来てみませんか!?

【見学概要】見学・映像視聴で約90分。1回20名程。時間は10:00~15:00、土日祝日は定休日。見学は完全予約制で希望日の7日前に予約をして下さい。申込先: 雪印メグミルク大樹工場 総務課PR担当 TEL: 01558-6-2121



## 料理レシピ) 寒い日にはホッとひと息 「ほんのり甘い ホットミルク焼酎」2人分

用意するもの: ①雪印牛乳(200ml) ②焼酎(お好み) ③ハチミツ(大さじ2杯) ④小鍋  
鍋に牛乳・焼酎・ハチミツの材料を全て入る。弱火で混ぜながら鍋の周りがフツフツするまで温める。お好みの器に注ぎ、高温に気を付けてゆっくり味わって飲みましょう。



## 特集 とかちびと — 穀内さんが快挙!! —

今回は北海道共進会でグランドチャンピオンを受賞された穀内さんにお話を伺います。

### File.05 穀内隆志さん 「先代の熱い思いが今に繋がっている」

(南部十勝地方連 大樹単研) 「家族一丸となった結果がこの賞の受賞に繋がったと思う。そして先代や同志会の仲間をはじめとする関係機関の皆様の協力があったからこそと強く感じておりに改めて皆様に感謝をしたい」こう語るのは第17回北海道総合畜産共進会で乳牛部門にて400頭の頂点であるグランドチャンピオンを見事掴み取った穀内隆志さん。この快挙は大樹町の酪農家にとって40年以上憧れだった賞である。40年以上前に同様のグランドチャンピオンを受賞した角倉博氏以来の快挙なのだ。今回受賞した牛は「エンブレムKスパークリングシエリー号(生年月日: 2014年(H26)12月31日)」。この牛は過去にも輝かしい成績を残してきた牛である。ここで敬意を込め、当牛の主な賞歴を以下に記載する。



### エンブレムK スパークリング シエリー号

- (血統) SIRE: ジレットティウエーブ スパークリングET  
母: エンブレムK サンチエス シエリー VG-88  
SIRE: ジェンマーク ストマチック サンチエス  
祖母: エンブレムK プリッツシエリー  
SIRE: フューステット エモリー プリッツET
- ★大樹町家畜品評会(2018.6.2) 経産 最高位
- ★第49回十勝総合畜産共進会(2018.8.18) 第12部1等2席
- ★北海道ホルスタインインターフェア(2018.10.28) 第12部2位
- ★第50回十勝総合畜産共進会(2019.8.18) 第15部1等1席(シニアクラス準最高位)
- ★第17回北海道総合畜産共進会(2019.10.28-29) (第14部1等1席 グランドチャンピオン・シニアチャンピオン受賞)



### 「仲間との刺激が改良を良くしていった」



今回受賞した牛の歴史は穀内牧場の歴史そのものだ。昭和48年に先代が輸入した牛が祖先となる。「導入した時から乳房の形状や品格が我が家の他の牛とは違っていた」と辨エンブレムK(穀内牧場)の社長であり、繁殖者でもある穀内和夫さんは語る。実に親子三代に渡って改良を続けてきた結晶であろう。これまで改良を続けてこれた原動力は乳牛改良同志会の多くの仲間と刺激され、自分も奮立たされてきたからだと振り返る。また共進会当日では大樹町の多くの仲間が駆け付け緊張する自分をサポートし牛の仕上げを手伝ってくれた。そのおかげで今回の受賞に繋がったのであり、決して自分一人の力では成し得なかった。絶大に信頼する仲間と恵まれ、みんなの力がチーム大樹となり今回の勝利に繋がったと隆志さんは語る。今回の受賞は穀内さん親子の涙ぐましい努力の結果であることは間違いない。来年は5年に一度の全日本ホルスタイン共進会が開催される記念すべき年。2020年東京オリンピック大会もさることながら、全共での穀内さんの活躍に酪農研会員一同注目したい。

酪農語録「牛乳は土から搾れ」言葉: 第1回宇都宮賞受賞者 福屋茂見